

国立公園／伊豆

名勝・伊豆西南海岸

# 南伊豆を歩く

南伊豆歩道運営協議会

## 事故のない楽しいハイキングのために

寝不足・体調不良のときは出掛けるのをやめよう。無理な行程を組まないでゆったりめの計画を立てよう。歩道のない車道を歩く箇所があるので交通ルールは必ず守って下さい。また、思わぬ事故や天候の急変、危険な有害動植物に遭遇した場合に対処できるようハイキングには、最低限、次の装備をし安全な山歩きをしてください。

### ◆装 備 (これだけは持っていこう)

- ① 帽子
- ② 長袖のシャツ・長ズボン
- ③ リュックサック
- ④ くるぶしまで隠れる軽登山靴
- ⑤ いたみにくいお弁当
- ⑥ 水筒
- ⑦ 雨具 (折り畳み傘・カッパ)
- ⑧ 着替え (上下の肌着)
- ⑨ 防寒具
- ⑩ タオル
- ⑪ 救急医療品
- ⑫ ビニール袋・新聞紙
- ⑬ 軍手などの手袋
- ⑭ 非常食・行動食 (アメ・チョコレート)
- ⑮ 健康保険証 (コピーで可)
- ⑯ 時計
- ⑰ ガイドブック
- ⑱ 地図

### ◆あると便利なもの

- ・ストック (杖) ・ 双眼鏡 ・ カメラ ・ 図鑑
- ・ ルーペ ・ 懐中電灯 ・ 野外手帳 ・ 筆記用具
- ・ サングラス ・ ラジオ ・ コンパス ・ 呼笛
- ・ ライター ・ ナイフ ・ 使い捨てカイロ
- ・ 携帯電話 ・ 虫よけスプレー



### 目 次

- ・ 南伊豆の全体図 ..... 2
- ① 須崎遊歩道 ..... 4
- ② タライ岬遊歩道 ..... 6
- ③ 長津呂歩道 ..... 8
- ④ 南伊豆歩道 (1) 中木～入間 ..... 10
- ⑤ 南伊豆歩道 (2) 入間～吉田 ..... 12
- ⑥ 南伊豆歩道 (3) 吉田～妻良 ..... 14
- ⑦ 子浦日和山遊歩道 ..... 16
- ⑧ 波勝崎歩道 ..... 18
- ⑨ 三浦歩道 ..... 20
- ⑩ 岩地歩道 ..... 22
- ・ 南伊豆の花ごよみ ..... 表2
- ・ ハイキング帰りに入れる湯どころ ..... 24
- ・ 主な観光施設 ..... 表3
- ・ 主な祭り・行事 ..... 表3

## 南伊豆地方の自然

### 気 象

太平洋に長く突き出た伊豆半島は、三方を海に囲まれているため黒潮の影響を受けやすく、特に南伊豆地方は平均気温が15℃～16℃で、無霜地帯と呼ばれるほど温暖な気候に恵まれている。年降雨量2,000mmで静岡県内でもやや多い。伊豆の先端に位置する南伊豆地方は東側が相模湾に、西側が駿河湾に面していて、東と西ではしばしば天候が異なることがある。特に風は東側では北東風が、西側では南東風が吹きやすい。冬場は風の強い日が続くことが多く、海岸線を歩く時は特に注意が必要である。

### 動 物

温暖な気候と豊かな自然に恵まれた南伊豆地方には、数多くの動物が住んでいる。ツキノワグマやカモシカなどの大型動物はいないがイノシシ、シカ、タヌキ、ハクビシ、ウサギなどが見られ、特に海岸部ではサルに出くわすことが多い。波勝崎には250匹の野生のサルの群がいて容易に遭遇することができる。ただし、ちょっと油断するとサイフやカメラ、手荷物を取られることがあるので注意が必要だ。

南伊豆地方の海岸線は山が近くに迫った岩礁地帯でウミウやヒメウ、カモメ類、サギ類が多く見られ、石廊崎ではたくさんのオシドリが越冬に訪れる。海で越冬するオシドリは全国的にも珍しい。海岸地帯は温暖な気候のため山の鳥たちの絶好の越冬地ともなっており、たくさんの野鳥が観察できる。

### 植 物

南伊豆地方の海岸には、ウバメガシやイブキの林が多く、海に近い丘陵地帯にはスダジイや、オオバヤシャブシ、カシワ、ハコネウツギ、キブシ、ヒメユズリハ、カクレミノ、海に迫った岩場にはマサキ、マルバシャリンバイ、トベラなどが多く見られる。

草花では、春から初冬まで次々と浜辺や海岸線を彩る。ハマダイコン、ハマエンドウ、ハマヒルガオ、ハマボッサ、タイトゴメ、ハマアザミ、スカシユリ、イズアサツキ、ハマナデシコ、ハマユウ、イソギク、ツワブキ、アゼトウナ、そしてスイセン、ヤブツバキと花の絶えることがない。

### ハイキングの マナー



- ゴミは必ず持ち帰ろう
- 動物や植物を採らない
- 歩行中は禁酒・禁煙
- 他人の土地に入らない
- コースを外れない
- 大声や大きな音を出さない
- 焚き火・タバコの投げ捨て厳禁
- 気軽に声をかけよう



## 南伊豆の花ごよみ (ハイキングコースで主に見られる花)

○見られる ◎多く見られる

花	季節・コースNo.	春		夏			秋			冬		コースナンバー														
		3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩			
アジサイ														○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
アゼトウナ															○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
アロエ																										
イズアサツキ																										
イソギク																										
オオシマザクラ																										
キブシ																										
紅葉																										
スイセン																										
スカシユリ																										
タイトゴメ																										
タツナミノ																										
ツツジ																										
ツワブキ																										
トベラ																										
ナノハナ																										
ハコネウツギ																										
ハマアザミ																										
ハマエンドウ																										
ハマダイコン																										
ハマナデシコ																										
ハマヒルガオ																										
ハマボウ																										
ハマボッサ																										
ハマユウ																										
マーガレット																										
マルバシャリンバイ																										
ヤブツバキ																										
ヤマザクラ																										
ヤマユリ																										
ユウスゲ																										



水仙



スカシユリ



ツワブキ



マーガレット



ユウスゲ



アロエ

# 南伊豆 MAP

下田市  
南伊豆町  
松崎町



※堂ヶ島〜波勝崎の観光船は  
30名以上の団体・予約のみ運航  
(問)堂ヶ島マリン ☎0558・52・0013

※堂ヶ島〜波勝崎の観光船は  
30名以上の団体・予約のみ運航  
(問)堂ヶ島マリン ☎0558・52・0013

- 車道
- バス道
- ハイキングコース

# 1

## 須崎遊歩道

(一般向・家族向)

伊豆七島を眺めながら爪木崎へ

下田港の東にポコッと突き出た半島が須崎半島である。その南端の漁港、須崎から水仙の咲く爪木崎まで2・8kmのハイキングコースが須崎遊歩道。道幅1〜1・5m、整備のいきとどいたコースには、6ヶ所の休憩所、案内標識、解説板、距離標識が設置されているので安心して歩ける。

コースは、伊豆七島が一望できる海岸線を歩く岩場コースと静かな山道コース、さらに細間の段までの新ルート・海岸コースが開設されたので、須崎を基点にして岩場コースあるいは海岸コースを経て爪木崎へ行き、山道コースを経て須崎へ戻るコースがよい。

伊豆急下田駅から(南伊豆東海バス)須崎海岸・爪木崎行バスで12分、須崎海岸で下車し海へ向かって左方向に進む。5分ほどで天草の網干し場、船だまりの小白浜に着く。

ここから左に民家の間に入るのが岩場コースで、港をさらに行った堤防の所が海岸コース。海岸コースは岩場コースの南側(海側)を歩くのでそれだけ海の展望がよい。

ここでは海岸コースを行く。途中、小白浜から左に民家の間を抜け、急坂を上がって庚申堂へ寄っていきこう。石段を上がると正面にエンマ様のお堂、その右上の石室に33観音が祀られている。



▲33観音

小白浜に戻りたくさんの船が係留されている船だまりを見ながら進むと港の外れに遊歩道の案内板がある。岩場のトラス橋を渡り、木段の歩道を次第に高度を上げていく。心地よい潮風と海の展望が楽しめる道だ。いったん樹林帯に入ってから細間の段を見下ろす高台に出ると、オオ!と思わず声がでるほどの絶景が待つ



▲細間の段

ている。下れば細間の段に出る。

細間の段は、江戸時代から明治にかけて石材を切り出した場所。風や波に浸蝕されているが、切り出した跡があちこちに見られる。崖壁に立つと、利島、新島などの伊豆七島が洋上に浮び、沖には大型船がしきりに行き交うのが望める。

岩場コースに出て、右へ下り岩の多い海岸線を行く。少し先の小さな入江の中ほどから樹林帯に入る。海岸特有の亜熱帯植物が繁るうっそうとした道で、枝道もあるが案内標識がしっかりとあるので安心して歩ける。

樹林帯を抜け木はしごを上ると前がバーツと開け、正面に爪木崎灯台が見える。ベンチがあるので一休みしていこう。ここからは岩場に敷石された歩きやすい歩道を行く。



▲水仙が咲く爪木崎

帰りは田ノ尻まで戻り、沢に沿って笹原の山道へと入る。桜や椿も多く見られ峠らしき所を越え、あとは畑の中の下り。正面に小さな鳥居。左へ曲り集落の中の坂道を下る。途中、伊豆横道33観音の21番札所観音寺に詣でていこう。須崎海岸バス停まではもう近い。時間のある人は、このまま右側の海岸づたいにエリカの咲く恵比須島自然公園まで行ってみよう。



▲須崎

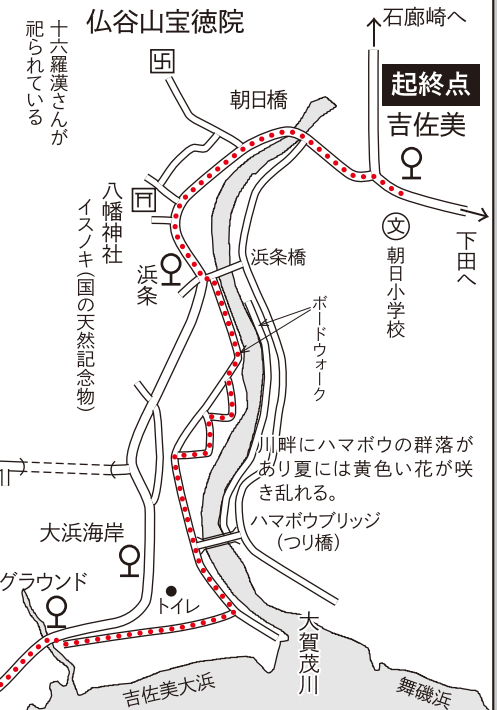
# 2

## タライ岬遊歩道

(家族向・一般向)

白砂青松・美しい海岸を歩く

歩程 約 **2時間40分**



▲大賀茂川畔のボードウォーク

南伊豆町が誇る弓ヶ浜海水浴場はその名の通り弓型に弧を描いた白砂青松の浜で、夏には多くの海水浴客でにぎわう。松林の中に休暇村南伊豆があり、そこがコースの起終点。海水浴シーズン以外は、日帰り温泉で疲れた身体を温めることが出来る。

風の音を聞きながら東へ進むと、荒々しい磯の逢ヶ浜へ出る。弓ヶ浜の砂浜とは対照的に、ゴロタ石と奇岩が浮かぶ。潮が満ちてくると群雀の鳴くような音を立てる雀岩、続いて姑岩、尖った形の中が穴になったエビ穴が確認できる。これらは海食によって出来上がったものである。海底火山のマグマが造った放射状の割れ目である放射状節理も確認できる。11月頃にはツワブキとイソギク、3〜4月頃にはハマダイコンが咲き誇る。

浜のはずれから吹折坂という石と丸太の階段を上り、上り切ると案内標識のある分岐。右にはきつい急階段を上っていく健脚コースと、その左には急階段を迂回するらくらくコースがある。二つのコースは合流し、緩やかな灌木の中を上り、ウバメガシの林を抜けるとタライ岬に出る。

足元に広がる青い海、岩に打ち寄せる白い波と雄大な大海原を一望できる。右後方に弓ヶ浜から南伊豆の海岸線、その先に巽掛岩、石廊崎。正面には灯台をのせた神子元島、遙か沖には伊豆七島も確認できる。さらに東を見ると、半月形にぽっかりと口を開けた大洞と、伊豆に配流された源頼朝が遊んだという伝説が残る遠国島を見ることが出来る。

再び灌木の中を下って磯に出てから小さな沢沿いに上る。磯づたいにつり人が歩く道もある。

沢沿いの道の両側に無数の小さな穴があいている。このあたりで「ウオノカニ」と呼ばれているカニの穴だ。

ゆるやかに灌木林を行くとボードウォークの道となり、上り切ると丁字路の分岐。左すぐ上に、前にタライ岬へ向かった分岐が見える。右へ平坦な道を行く。沢沿いからこの辺りまでツバキが植栽されている。

ウバメガシの林を下って舗装道に出ると案内板がある。

道はこのあとアシタバが多く見られる広い舗装道となり、遠国島を間近に見ながら、やがて、素掘りの小さなトンネルを抜けると、もう田牛の集落に入る。夏には海水浴にいい広い砂浜があり、右手の港にはイセエビ漁の朱色の網が、ひとときわあざやかに干されている。

龍宮窟バス停から集落の細い道を少し行ったところに、国の重要文化財「木造阿彌陀如来座像」が安置されている長谷寺がある。

浜のはずれのこんもりとしたところが龍宮公園で、波の浸蝕でできた龍宮の穴と呼ばれる大きな洞(龍宮

窟)をめぐる周遊道がついている。その先、トンネルの手前を右に細い階段を降りると、海からの強風で吹き上げられた砂の急斜面がある。地元の子供たちは、この斜面で手製のソリを使ってサンドスキーを楽しんでいる。また、この浜一帯は県の天然記念物になっているハマユウの群生地でもある。

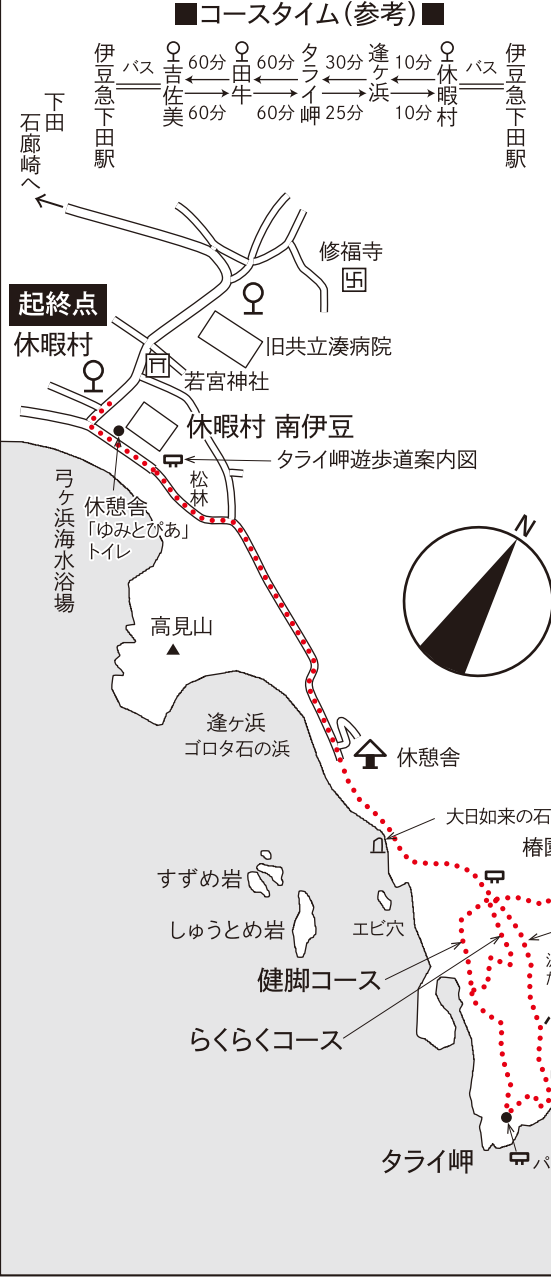
ここからバスで下田へ出ればいいのだが、1日に数便しかないのので、海岸を3kmほど歩いて吉佐美バス停へでるといい。途中、ハマボウの群生地や国の天然記念物イスノキのある八幡神社、十六羅漢を祭る宝徳院へ寄って行こう。十六羅漢めぐりは約40分。



▲逢ヶ浜



▲タライ岬



■コースタイム(参考)■

伊豆急下田駅	バス	伊豆急下田駅	60分	伊豆急下田駅	バス	伊豆急下田駅	60分
伊豆急下田駅	バス	吉佐美	60分	吉佐美	バス	伊豆急下田駅	60分
伊豆急下田駅	バス	逢ヶ浜	30分	逢ヶ浜	バス	伊豆急下田駅	10分
伊豆急下田駅	バス	タライ岬	60分	タライ岬	バス	伊豆急下田駅	10分
伊豆急下田駅	バス	休暇村	25分	休暇村	バス	伊豆急下田駅	10分

長津呂歩道は、伊豆半島最南端の地である石廊崎から、ユウスゲが咲く奥石廊崎の池の原を抜け、スノーケリングが人気の中木へ向かうコース。一部車道を併用している箇所があるので、車両には十分注意して歩こう。



▲石廊崎

石廊崎には、現在も沖行く船舶の安全を見守り続けている石廊崎灯台や、伊豆七不思議の一つにもなっている石室神社、縁結びの神様として有名な熊野神社、南伊豆のジオサイトを紹介します。南伊豆ビジターセンターが入っている石廊崎オーシャンパークなど、ここでしか見ることが出来ない絶景スポットや施設があり、

遊覧船からは険しく美しい地形を堪能できる。

時間があれば起終点付近にある石廊崎岬めぐり遊覧船にも乗ってください。伊豆半島最南端の石廊崎の断崖絶壁や岩礁、石廊崎灯台の景観を海から眺める遊覧船で、30分毎に運行されている。大根島や奥石廊崎など、船でしか味わえない豪快かつ神秘的な海の景色が堪能できる約25分の船旅である。

石廊崎港からやや急な坂道を上っていくと、平成31年4月に開園した石廊崎オーシャンパークに到着する。敷地内の休憩棟内には、石廊崎オーシャンパークNOTIAとして、お土産物販売や食事処の営業をしている。石廊崎の逸話に因んだ縁結びカレーなどここでしか食べることのできないメニューもある。施設内には南伊豆ビジターセンターがあり、伊豆半島のことを知り尽くしたジオガイドから、南伊豆町の成り立ちや地域に伝わる歴史文化のことまで、分かりやすい解説を聞くことが出来る。また、施設内にはバス停や駐車場もある。駐車料金は、普通車

500円、オートバイ1000円、大型バス800円。  
石廊崎オーシャンパーク  
0558・65・1600



▲石廊崎オーシャンパーク

鳥居をくぐり坂を上り切ると石廊崎灯台へ。さらに進むと伊豆半島最南端石室神社がある。今から1300年以上前に建てられ、現在の社殿は明治34年(1901年)に再建された歴史のある神社である。海上安全や商売繁盛、学業成就の神が祀られている。神社の床下にある伊豆の七不思議の一つ、千石船の帆柱を見ていきたい。さらに先端には熊野神社もある。

戻って石廊崎オーシャンパークの駐車場を抜けて、広い県道・下田石廊崎線を行く。案内板を右へ折れカヤトの草原を行く。春にはワラビやアシタバ、ツワブキなどの山菜がたくさん顔を出す。秋には一面ススキやワレモコウが揺れ雄大な景色が

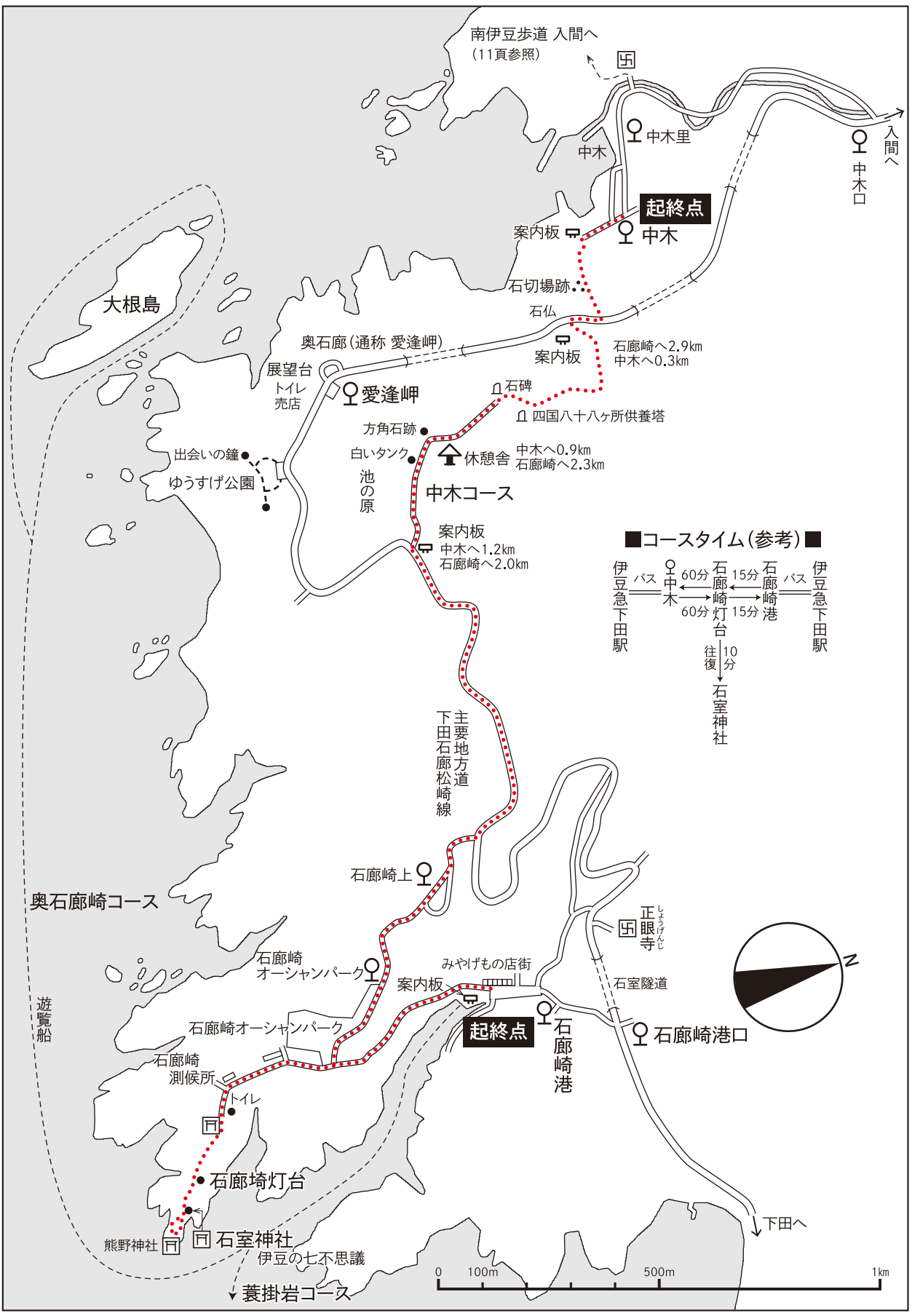
楽しめる。

展望の良い休憩舎で一休み。沖行く船や奥石廊崎の海岸線が絵のように見える。休憩舎を過ぎると、帆船航海のための海上気象予報の道具であり方位を示した方角石跡の看板あり。中木は、付近の妻良・子浦とともに風待港として文化・文政の頃に最も栄えたと言われている。方角石は現在、南伊豆郷土館に展示されているためその場で見ることは出来ない。その先には、雑木や山桜、樺の茂った中に四国八十八ヶ所供養塔が所々に見られる。

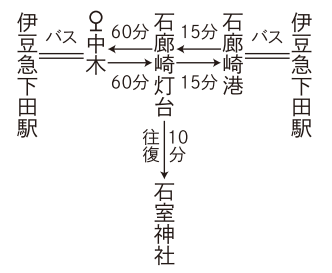
三体の石仏を通り過ぎ、小さな峠を下ると再び県道へ出る。県道を少し歩いて中木へ続く道を下る。途中石切場跡を見て、やがて中木へ到着。中木では、マグマが冷え固まる際の収縮によってできた柱状節理の迫力ある景色を楽しむことが出来る。



▲中木柱状節理



■コースタイム(参考)■



# 4

海鳴りと野鳥の声 海の展望がいい

## 南伊豆歩道(1) (中木ー入間)

(一般向・家族向)

南伊豆歩道は南伊豆町中木を起終点にして入間、吉田、妻良の集落をそれぞれのコースに分けて結んでいる。どのコースも交通の便が良くないので、宿泊を伴う等の余裕を持った計画を立てる必要がある。

また、どのコースも、遊歩道というよりも登山並みのハードな箇所があり、猪をはじめとする危険動物に遭遇する可能性も十分にあるので、決して軽装では行かないこと。登山靴を履き、ストックを持って行った方がよいだろう。携帯電話等の電波が入らない箇所があるので注意が必要。



▲展望台から奥石廊崎方面を望む

舗装が切れてジグザグの急な上り坂を上り切ると小さな分岐。案内標識(入間2・7km・中木0・3km)に従い右へとウバメガシの林の中へ上って行く。すぐに道は分かれるが、矢印に従い右へ上る。

急な丸太の坂を上ると、大きな灯籠とベンチのある展望台に到着する。奥石廊崎方面の絵のように美しい海岸線を眺めることが出来る。



▲念仏洞

さらに先に進むとベンチがあって、ここに念仏洞がある。念仏洞は、岩をくり抜いた石室で、石仏が外に1体、中に2体安置されている。昔、航海の安全を祈って、土地の老人たちが念仏を唱えた場所と言われている。

こちら辺り帯は、南伊豆町の木にもなっているウバメガシの林で、上り下りのある尾根道である。丸太の階段や案内標識がある一本道になっているので迷うことはないだろう。やがて道は海を左に見てカヤの多い道を進む。入間に近づくにしたがってジオサイトの千畳敷がよく見えてくる。

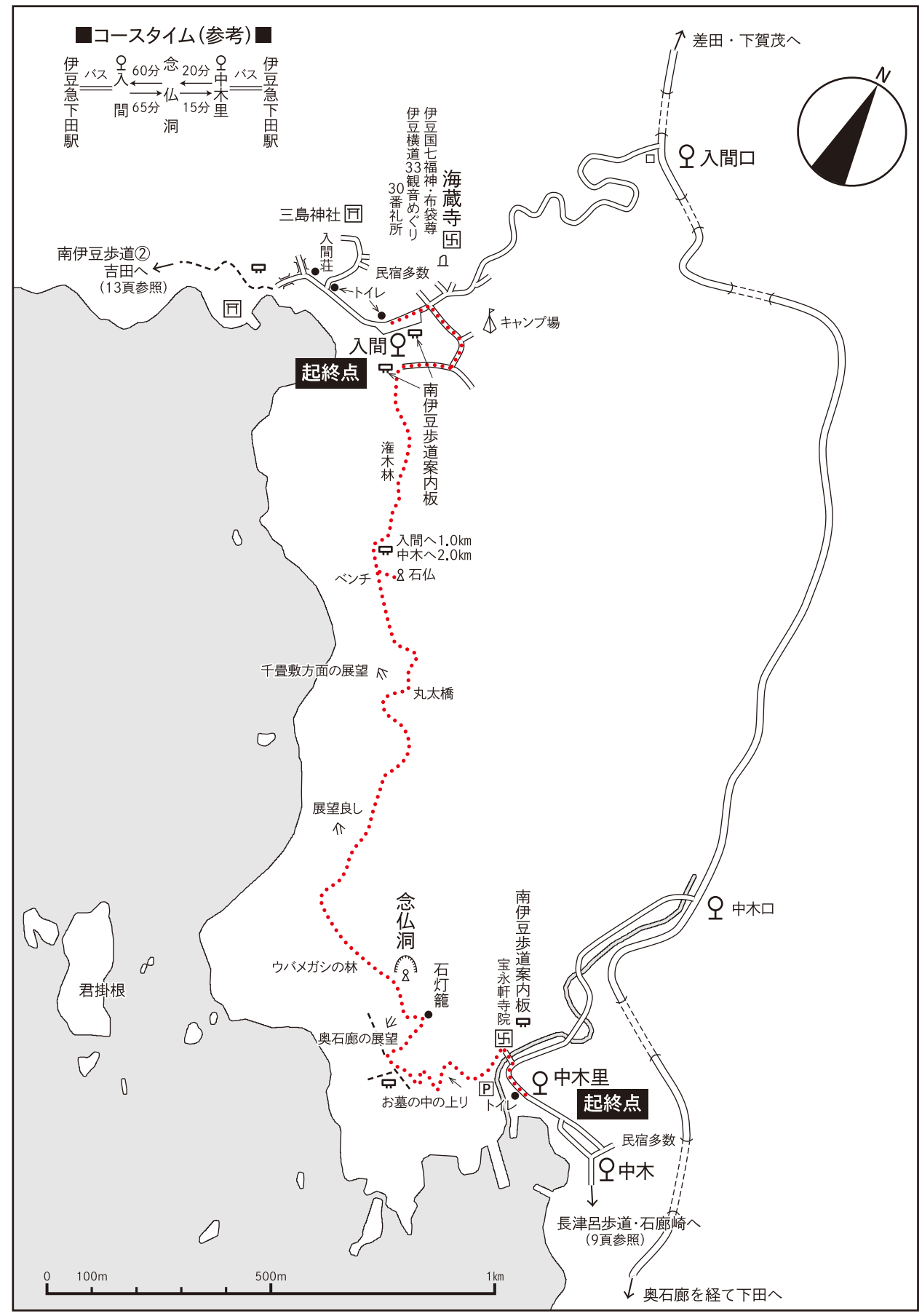
石仏を右に見た先からジグザグな急な丸太の段を下ると、明るい灌木の中に入る。アオキやコクサギ、ヤマザクラが多い道だ。道が緩やかになって、左手に海が見えてくると、少し先で舗装された広い道に出る。

ここに南伊豆歩道の案内板がある。広い道を道なりに進む。入間のキャンプ場を右に見て坂を上り切ると、広いバス道に出る。ここを左に進み、少し行った所が入間のバス停・駐車場になっていて南伊豆歩道の案内板がある。ここが中木ー入間コースの起終点である。

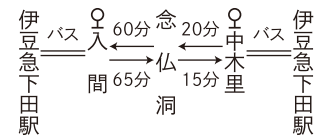
先ほどの広いバス道に出た所に戻り、遊歩道方面に曲がらずそのまままっすぐ進むと、伊豆横道三十三観音霊場めぐりの30番札所であり、伊豆88遍路の59番目の札所である海蔵寺がある。宗派は臨済宗。伊豆国七福神の布袋尊も祀られているので、正月には参拝者で賑わう。

### 歩程 約1時間20分

起終点の中木で中木里バス停近くのたみや橋を渡ると南伊豆歩道の案内板がある。石段を上ると無住の宝永軒寺院がある。六地藏の脇を通り中木の集落を左に見て進むと、入間2・9kmの案内標識。右へカーブしてお墓の中の急な坂を上って行く。お墓の中を上る道は、手すりを挟んで左右に一つづつあるが、左側を上がつていく。上り切ると南伊豆歩道の門柱が建っている。振り返ると中木の集落がよく見える。



#### ■コースタイム(参考)■



# 5

## 南伊豆歩道(2) (入間―吉田)

(一般向)

千畳敷と160mの断崖を行く

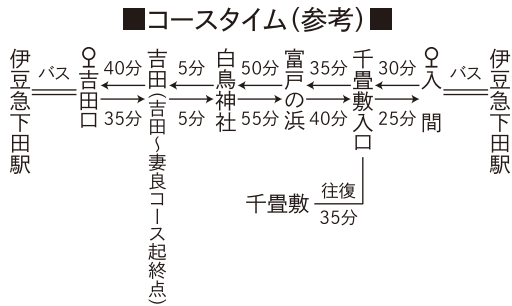
南伊豆歩道・入間―吉田コース(全長約4km)は、南伊豆歩道の中でも最も高低差があり、歩く難易度が高い。きつい分、海底火山が作ったダイナミックな景観を楽しめるコースだ。かなりハードなコースなので登山靴を履き、ストックを持つていくのが望ましい。また、体力をかなり使うので季節を問わず飲料水や軽食は十分に準備する必要がある。

交通は不便なので、宿泊を伴う等のゆとりを持った計画を立てる必要がある。

入間のバス停から、そのまま広い道を海岸へと下っていく。入間の冬は風が強いので、海側は石垣で囲まれている。浜は深い入り江になっていて、夏には海水浴や磯遊びの家族連れでにぎわう。入り江の右手に見える船揚場がこのコースの入口。大きな案内看板がある。急な石段を上る。足元に生えている、冬でも青々としているハート形の葉は、フウトウカブラである。

上り切ると左に南伊豆町の小さな石柱。ここからいったん下ってまた上り。この先は滑りやすい箇所がある。

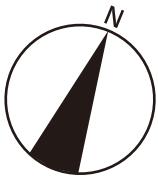
### 歩程 約3時間30分



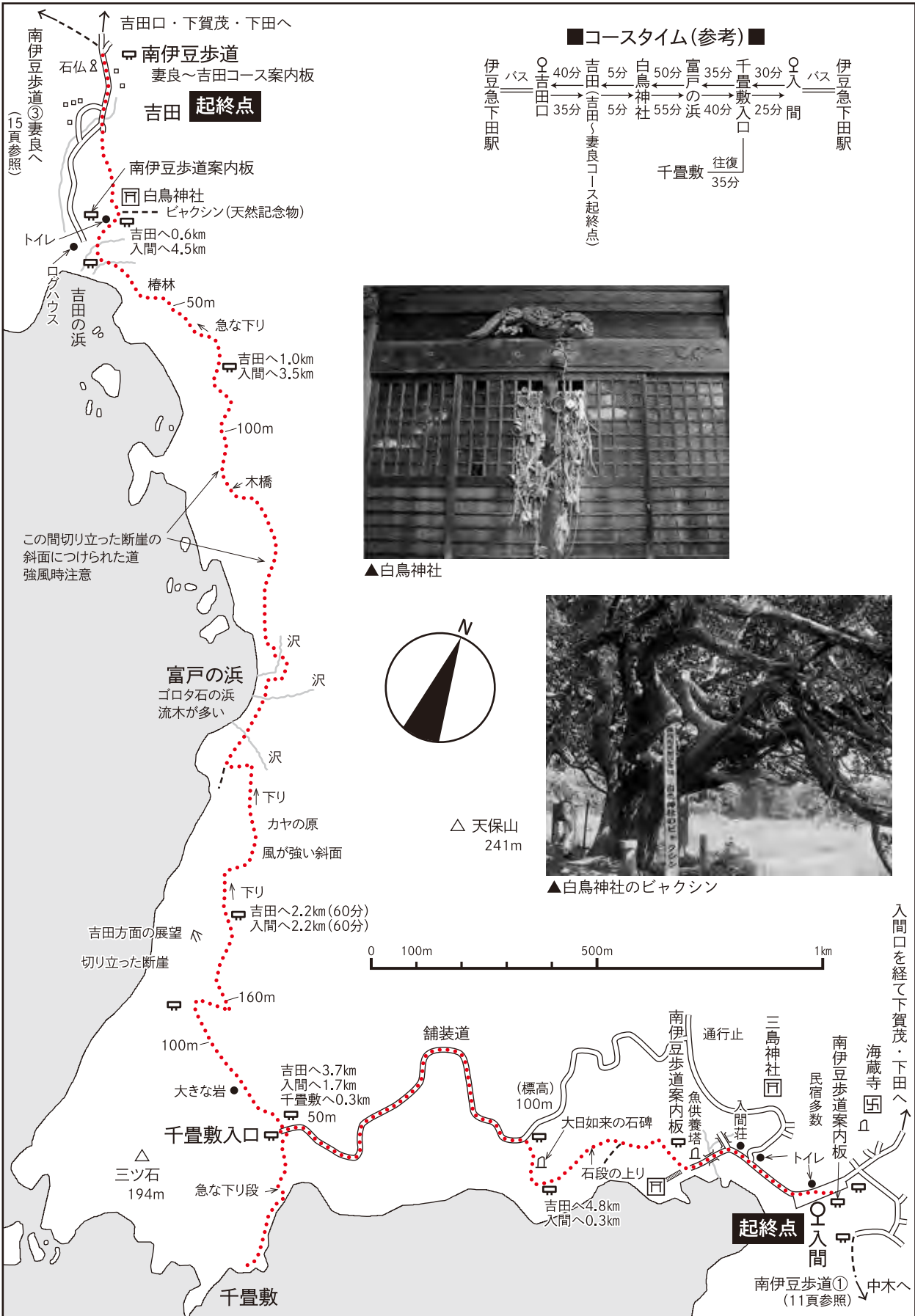
▲白鳥神社



▲白鳥神社のビャクシン



△天保山 241m



▲吉田方面の展望

るので注意しながら上る。途中、大日如来の碑がある。上り切り、舗装された林道を左へ。林道の終点に大きな案内看板がある。ここが千畳敷の入口である。急な階段なので足元に注意しながら下りよう。往復35分くらいみておけば行つてこられる。

千畳敷は、入間地区の小学校の通路を作るために石を切り取った所だ。また、海底に降り積もった火山

灰などからなる美しい地層を見ることが出来る。平坦な磯となっていて、磯釣りの名所としても知られている。千畳敷は伊豆半島ジオパークの中でも特徴的なジオサイトで、南伊豆町の小学生も授業で訪れている。林道の右側にある吉田2・5kmの案内標識からスズ竹の多い山道に入る。スズ竹がカヤの原に変わって上り切ると、高さ160mの絶壁の上に出る。ここからはどんと下っていく。

右側は深い谷になっていて、ちょうど尾根を歩くようなかつこうだ。カヤの斜面からジグザクに下る。季節風の時期にはまともに歩けないほどの強風が吹きつけるので注意が必要だ。

ゴロタ石の富戸の浜を突っ切って正面の沢に向かう。沢の右手から岩場を上り、沢沿いの上って行く。途中で、この沢を左へ渡り、急な斜面をジグザクと上って行く。断崖沿いに上って行くと左側が開けて、今歩いてきた三ツ石方面がよく見える。ここからは急に落ち込んだ斜面につけられた道で、アツブダウンの一本道が続く。展望は良いが足を踏み外すと大変危険な道なので特に風の強いときは注意して歩こう。

下りがきつくなつてツバキの林を抜けると吉田の浜に出る。防波堤を歩き、中央付近から右に下り、沢を

渡ると正面に、樹齢約800年・県の天然記念物であるビャクシンの茂る白鳥神社がある。

白鳥神社には日本武尊と弟橘姫命が祀られ航海安全と安産のお宮として知られている。安産祈願をし、無事安産を終えたら小穴の開いた「ひしゃく」と「麻ひも」を持つてお参りをする習わしがある。

神社前から舗装された細い道をたどると吉田の集落へ入る。アロエ畑が特徴的な小さな集落だ。広い道に出て、そのまま進むと南伊豆歩道吉田―妻良コースの案内看板がある。ここで打ち切る場合は、このまま車道を約2km歩くとバス停吉田口に到着する。



# 6

## 南伊豆歩道(3) (吉田-妻良)

(一般向)

亜熱帯のジャングルもある臨海コース

南伊豆歩道・吉田-妻良コースは、吉田と妻良が起終点。中木-吉田と歩いてきたら、このまま妻良まで歩いたら良い。時間的に厳しくなりそうであれば、宿泊を伴ったゆとりのある計画を立てる必要がある。

このコースだけを歩くのならば、吉田口のバス停から2km強でコースの入口に到着する。

この南伊豆歩道・吉田-妻良コースは、初めの1km(約30分)が林間コース、次の200m(約10分)が牧歌的な雰囲気のある草原コース、続くコース中間地点までの700m(約20分)がジャングル景観コース、妻良側に回って900m(約30分)が臨海コース、残り妻良までの1.2km(約30分)が林道コースとなっている。

妻良へ約4kmの案内標識から山道に入る。右に深い川を見て、ツバキやアオキなどの灌木の中を上って行く。丸太の段や石の段、時には石を敷いたような上りもある。林間コースといわれるだけあつ



▲ジャングル景観コースを行く

て灌木が茂り、まったく展望がない道が続く。  
上り始めて30分くらいで右に大きく曲がる。吉田から、まだ800mの付近だ。少しきつい丸太の段を上り切ると海をのぞむ断崖の上に出る。左下に大きな島が見える。このあたりからスズ竹の下りとなり、次第にカヤの茂る草原へと道が続く。  
草原コースを抜けて灌木の中に

入った所にベンチとコース解説板がある。  
『これより南(つまり今歩いてきた道)は「かや」のはえた牧歌的な雰囲気のあるコースとなります。昔はかや場として屋根材、花ごも、炭俵などに使う材料を作っていた所です。』  
これより北は、足元を「じゅうもんじしだ」や「きよたけしだ」などのシダ類が覆い、樹の幹に「きづた」や「フウトウカズラ」などの、つる性植物が繁茂した緑一色のジャングル景観となります。』  
フウトウカズラはコシヨウ科の常緑つる性の木で、初夏に黄色い花穂をつけ、冬には球形の赤い実が穂になって垂れる。実は薬用になる。

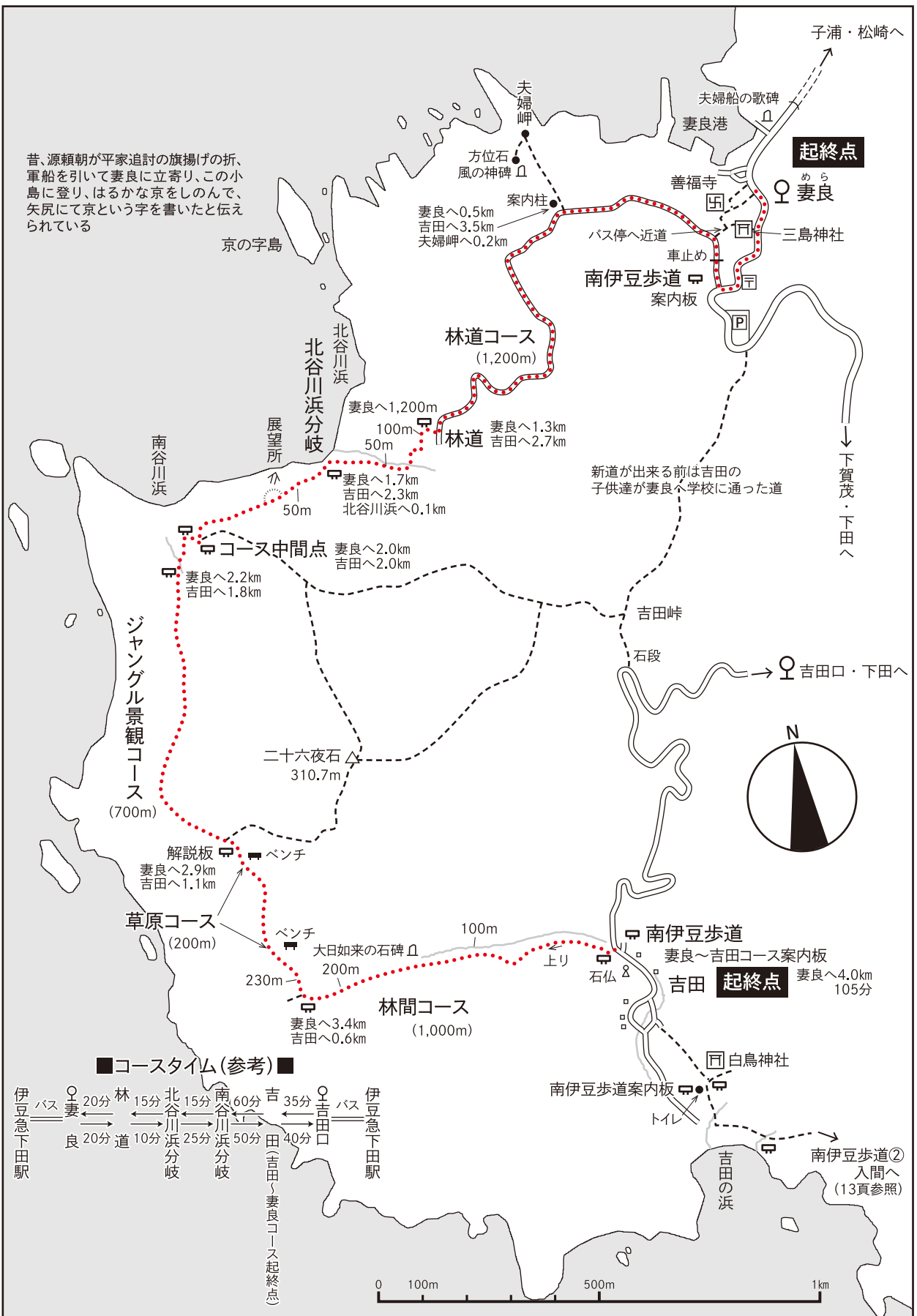
ジャングル景観コースが終わると南谷川浜への分岐。ここを少し上った所がコースの中間地点である。左に上がっていくと、眼下に京の字島、遠く子浦から名勝伊豆西南海岸が一望できる。海岸線にへばりつくような集落は落居、伊浜。左手の高い山は波勝崎だ。  
左にこの展望を見ながらの臨海コースは、この先にベンチがある展望所がある。  
かなりきつい急な丸太の下りから、石段の下りに石段の下りに変わり、少し先で木のハシゴを下り



▲京の字島方面の展望

て木の橋を渡る。  
北谷川浜への分岐を右に、沢沿いに上る。ここもかなりきつい上りなので足元に注意して歩こう。岩を削った石段から丸太の階段に変わり、上り切ると林道に到着する。  
妻良まであと1.2km。途中、左に5分ほど入った所に展望の良い夫婦岬(案内看板あり)がある。高台の展望所には方角石と風の神が祀られている。  
林道をのんびりまっすぐ行けば国道にぶつかる。左に下れば妻良のバス停に到着する。

入った所にベンチとコース解説板がある。  
『これより南(つまり今歩いてきた道)は「かや」のはえた牧歌的な雰囲気のあるコースとなります。昔はかや場として屋根材、花ごも、炭俵などに使う材料を作っていた所です。』  
これより北は、足元を「じゅうもんじしだ」や「きよたけしだ」などのシダ類が覆い、樹の幹に「きづた」や「フウトウカズラ」などの、つる性植物が繁茂した緑一色のジャングル景観となります。』  
フウトウカズラはコシヨウ科の常緑つる性の木で、初夏に黄色い花穂をつけ、冬には球形の赤い実が穂になって垂れる。実は薬用になる。



昔、源頼朝が平家追討の旗揚げの折、軍船を引いて妻良に立寄り、この小島に登り、はるかな京をしのんで、矢尻にて京という字を書いたと伝えられている

■コースタイム(参考)■

伊豆急下田駅	バス	20分	林	15分	北谷川浜	15分	南谷川浜分岐	60分	吉田	35分	吉田	バス	伊豆急下田駅

歩程 約2時間50分

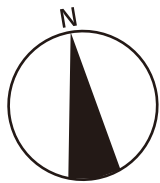
野猿が約300匹群れ遊ぶ波勝崎から雲見入谷までを結ぶ約5.3kmの波勝崎歩道。展望随一の高通山経由のコースであり、道中もその美しい海岸線と遠くに御前崎、富士山、伊豆諸島を望むことが出来る。ただし、このコースはきつい上りが続き、猪だけではなく野生の猿に遭遇する危険性があるので、軽装で行ってはいけません。飲料水も十分に持って行こう。起終点である波勝崎モンキーベイ駐車場付近に、大きな案内看板がある。その案内看板の右方向より始まる歩道を北へと進んで行く。雲見入谷バス停4.7km・高通山1.7kmの看板が見えると舗装された県道を上って行く。所々に猿がいるので注意が必要だ。気を許すと、持ち物を取られる恐れがあるので要注意。安易にエサをあげてはならない。進んで行くと大きく左にカーブする箇所に到着し、ここから本格的な長くきつい上りが始まる。雲見入谷バス停4.5km・高通山1.5km・波勝崎0.8kmの案内標識



喚声台

コースタイム(参考)

伊豆急下田駅	波勝崎口	波勝崎	波勝崎	高通山	高通山登山口	雲見入谷	松崎
バス	60分	60分	90分	50分	25分	25分	バス
	70分	75分	65分	30分	30分		



波勝崎

あり。時間のないときはここから歩きだしても良いだろう。

波勝崎歩道から少し外れてしまいが、県道を遊歩道方面に曲がらずにそのまま上り続けていくと、伊浜が一望できる喚声台に到着する。この地は伊浜平造という地名であるが、故林武画伯がこの地で開かれた海岸美の眺望に思わず喚声を上げたことにより喚声台と名付けられた。時間があれば、喚声台からの景



千貫門と浅間山を望む

色も見ていきたいところ。

波勝崎歩道に戻り、きつい上りを上り切ると、あたりは山桜が目立つうっそうとした灌木の中で、ところどころに木の段がある緩い杉林の上りを抜け、尾根につかる。ベンチが二つあり、高通山まで0.8kmの案内標識あり。

灌木が繁る尾根筋で木の段がずっと上に伸びている。ほとんど展望がないが時折、木立の間から雲見の浅間山や千貫門方面が見える。

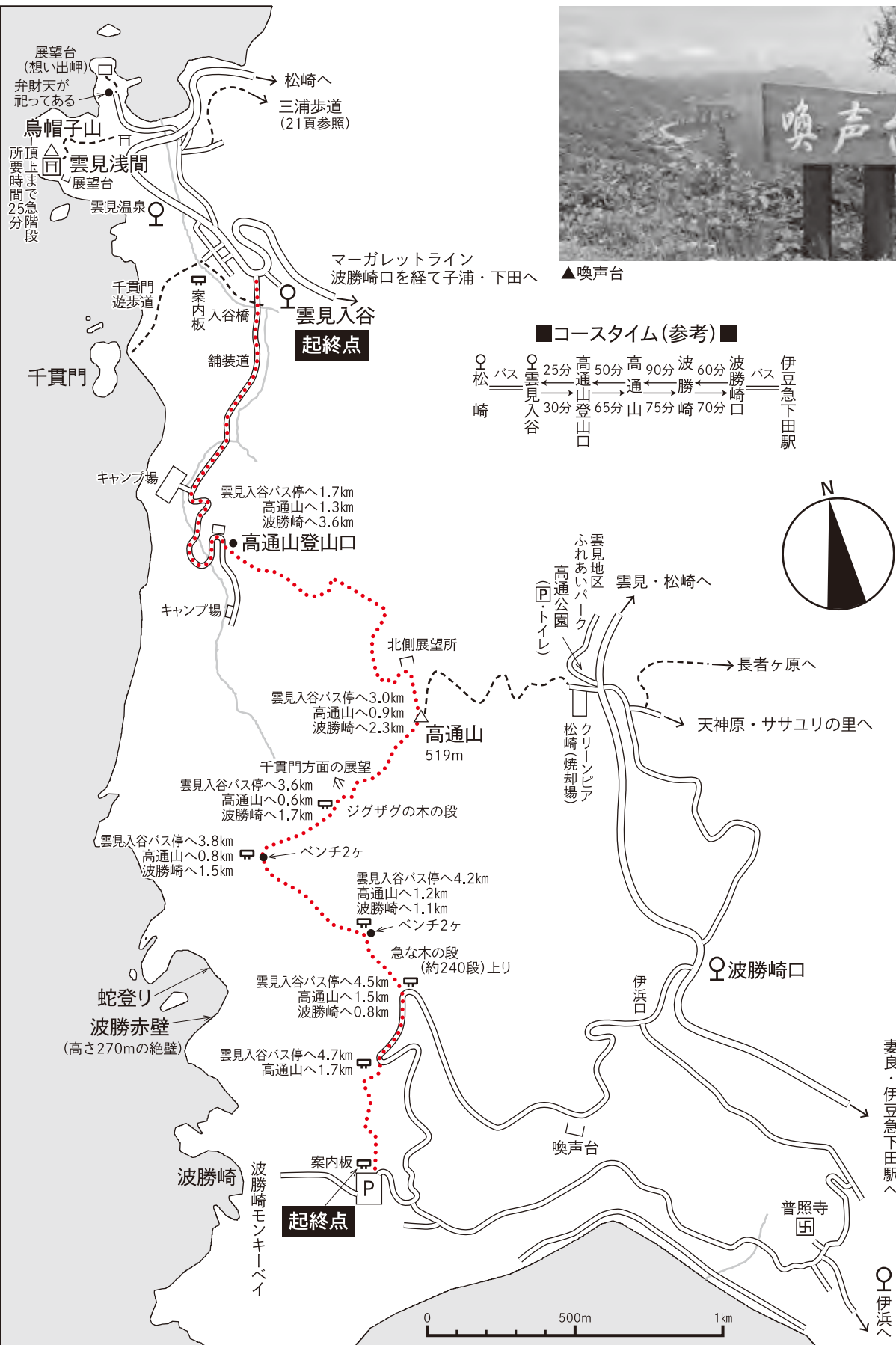
一旦下ったかと思うと、また見上げるような木の段の上りが続く。しばらく上がると木の柵が施されたジグザクの急な木の段が始まる。海の展望が開け、千貫門や富士山

が望める。上りが緩やかになり、草原の上りの先に高通山頂上が見えてくる。大きな岩がある山頂からは南伊豆の海と山並みが望める絶景地。初夏には赤いヤマツツジの花が山頂を埋める所だ。

桜の林を北に抜けると北側展望所。変化に富んだ西海岸と富士山が目飛び込んでくる。眼下には雲見集落、浅間山、千貫門の絶景がある。春にはあたりの山々がオシマザクラで真っ白になる。

雲見入谷に下る道に入ってしばらく行くと、灌木の中に猿岩と呼ばれる大きな岩が二つ。なおも斜面を下ると灌木の繁る尾根道となり、木の段がほとんどない下りで、石ころが多くて歩きにくい所がある。

左下にキャンプ場が見えてくると高通山登山口に出る。右に露天風呂を見て舗装道路を下り、山頂から見下ろした烏帽子山を見ながらなおも下る。キャンプ場の前を通り下り切ると雲見入谷のバス停。松崎行きのバスの便は少ない。時間に余裕があれば、入谷橋から川沿いに下り、山頂から見た奇岩・千貫門へ行ってみよう。往復40分くらいだ。



歩程 約2時間50分

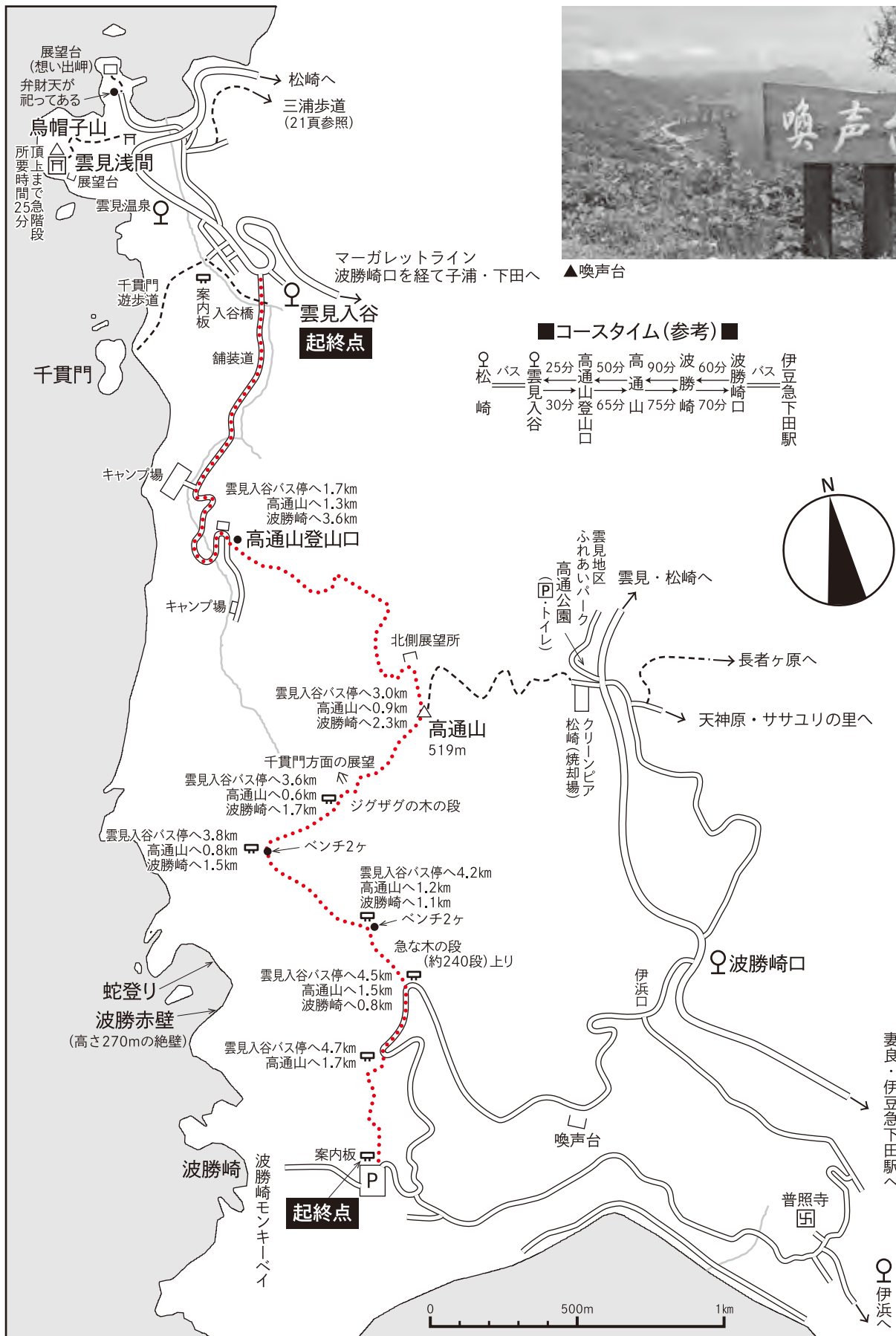
野猿が約300匹群れ遊ぶ波勝崎から雲見入谷までを結ぶ約5.3kmの波勝崎歩道。展望随一の高通山経由のコースであり、道中もその美しい海岸線と遠くに御前崎、富士山、伊豆諸島を望むことが出来る。ただし、このコースはきつい上りが続き、猪だけではなく野生の猿に遭遇する危険性があるので、軽装で行ってはいけません。飲料水も十分に持って行こう。起終点である波勝崎モンキーベイ駐車場付近に、大きな案内看板がある。その案内看板の右方向より始まる歩道を北へと進んで行く。雲見入谷バス停4.7km・高通山1.7kmの看板が見えると舗装された県道を上って行く。所々に猿がいるので注意が必要だ。気を許すと、持ち物を取られる恐れがあるので要注意。安易にエサをあげてはならない。進んで行くと大きく左にカーブする箇所に到着し、ここから本格的な長くきつい上りが始まる。雲見入谷バス停4.5km・高通山1.5km・波勝崎0.8kmの案内標識



喚声台

コースタイム(参考)

伊豆急下田駅	波勝崎口	波勝崎	波勝崎	波勝崎	高通山登山口	雲見入谷	松崎
バス	60分	60分	90分	50分	25分	25分	バス
	波勝崎口	波勝崎	波勝崎	波勝崎	高通山登山口	雲見入谷	
	70分	75分	65分	65分	30分	30分	



波勝崎

あり。時間のないときはここから歩きだしても良いだろう。波勝崎歩道から少し外れてしまいが、県道を遊歩道方面に曲がらずにそのまま上り続けていくと、伊浜が一望できる喚声台に到着する。この地は伊浜平造という地名であるが、故林武画伯がこの地で開かれた海岸美の眺望に思わず喚声を上げたことにより喚声台と名付けられた。時間があれば、喚声台からの景



千貫門と浅間山を望む

色も見ていきたいところ。波勝崎歩道に戻り、きつい上りを上り切ると、あたりは山桜が目立つうっそうとした灌木の中で、ところどころに木の段がある緩い杉林の上りを抜け、尾根につかる。ベンチが二つあり、高通山まで0.8kmの案内標識あり。灌木が繁る尾根筋で木の段がずっと上に伸びている。ほとんど展望がないが時折、木立の間から雲見の浅間山や千貫門方面が見える。一旦下ったかと思うと、また見上げるような木の段の上りが続く。しばらく上がると木の柵が施されたジグザクの急な木の段が始まる。海の展望が開け、千貫門や富士山

が望める。上りが緩やかになり、草原の上りの先に高通山頂上が見えてくる。大きな岩がある山頂からは南伊豆の海と山並みが望める絶景地。初夏には赤いヤマツツジの花が山頂を埋める所だ。桜の林を北に抜けると北側展望所。変化に富んだ西海岸と富士山が目飛び込んでくる。眼下には雲見集落、浅間山、千貫門の絶景がある。春にはあたりの山々がオシマザクラで真っ白になる。雲見入谷に下る道に入ってしばらく行くと、灌木の中に猿岩と呼ばれる大きな岩が二つ。なおも斜面を下ると灌木の繁る尾根道となり、木の段がほとんどない下りで、石ころが多くて歩きにくい所がある。左下にキャンプ場が見えてくると高通山登山口に出る。右に露天風呂を見て舗装道路を下り、山頂から見下ろした烏帽子山を見ながらなおも下る。キャンプ場の前を通り下り切ると雲見入谷のバス停。松崎行きのバスの便は少ない。時間に余裕があれば、入谷橋から川沿いに下り、山頂から見た奇岩・千貫門へ行ってみよう。往復40分くらいだ。

絵になる風景がつづく

1965年に松崎―石部間にバスが開通する前は、伊豆の秘境と呼ばれていた松崎町南部の岩地・石部・雲見の三地区を総称して地元の人には三浦と呼んでいる。バス道路ができる前に、地元の人達が利用していた生活道路に手を加えて作られたのが三浦歩道。岩地・石部・雲見を結ぶ延長4・6km、約2時間のハイキングコース。高尾山コース約7kmと結んで歩くのもいい。

松崎から雲見入谷行のバスで、富士山と20体の彫刻が置かれた富士見彫刻ラインを通り10分、一里塚で下車する。

コースの起終点は、ここからアロ工の段々畑を下った岩地海岸にある。正確に歩きたい人は、バスで一つ先の岩地温泉まで行き、海岸へ出てから段々畑を一里塚まで上るといい。登りつめた所には石仏が1体、やさしく迎えてくれる。

山側へ伸びた広い舗装道の脇に案内標(石部まで2・4km)があるので、これに従い細い段々畑を登っていく。冬にはアロエやマーガレットが咲く。振り返ると岩地海岸が一幅の

絵のように美しい。石段を上って広い道に出たら右へと下る。舗装された道が大きく右へ



▲三競展望台

カーブする手前から案内標にしたがい左へ上る。旅荘の脇を通り、畑の中の小さな四ツ角を右へ旅荘の裏手へと廻り込む。平坦で展望のない道を行くと間もなく休憩舎。かつては、

ここからも展望がよかったが、樹林が繁り、今は全く展望がない。小さな沢を渡る。椎茸の林を見て少し行った小さな峠に石仏が1体。宝暦五年(1755)と彫られている。

岩地から1時間ほどで石部。いったん国道に出て山道川に沿って集落の中へと行く。

むかいばしを渡ると伊志夫(石部)神社。10月の最終土・日曜日に同神社の例祭が行われ、悪魔払いの神楽が奉納される。

神社からは少しきつい登り。ジグザグの急な上り道を15分で分岐点。雲見へ1・52km、石部へ0・76km、展望台へ0・2kmの案内標がある。桜の林をくぐって黒崎展望所へ出る。ここからは、眼下に岩地、石部の港が一望できる。

分岐点まで戻り三競展望台へと向う。山桜が多い。3月下旬から4月にかけて桜のトンネルができる。足もとはツワブキやアシタバが多いので山菜採りにもいい。

15分ほどで三競展望台。正面に御前崎から三保、眼下に岩地の日和山、萩谷崎、遠く堂ヶ島から麗峰富士の姿がある。

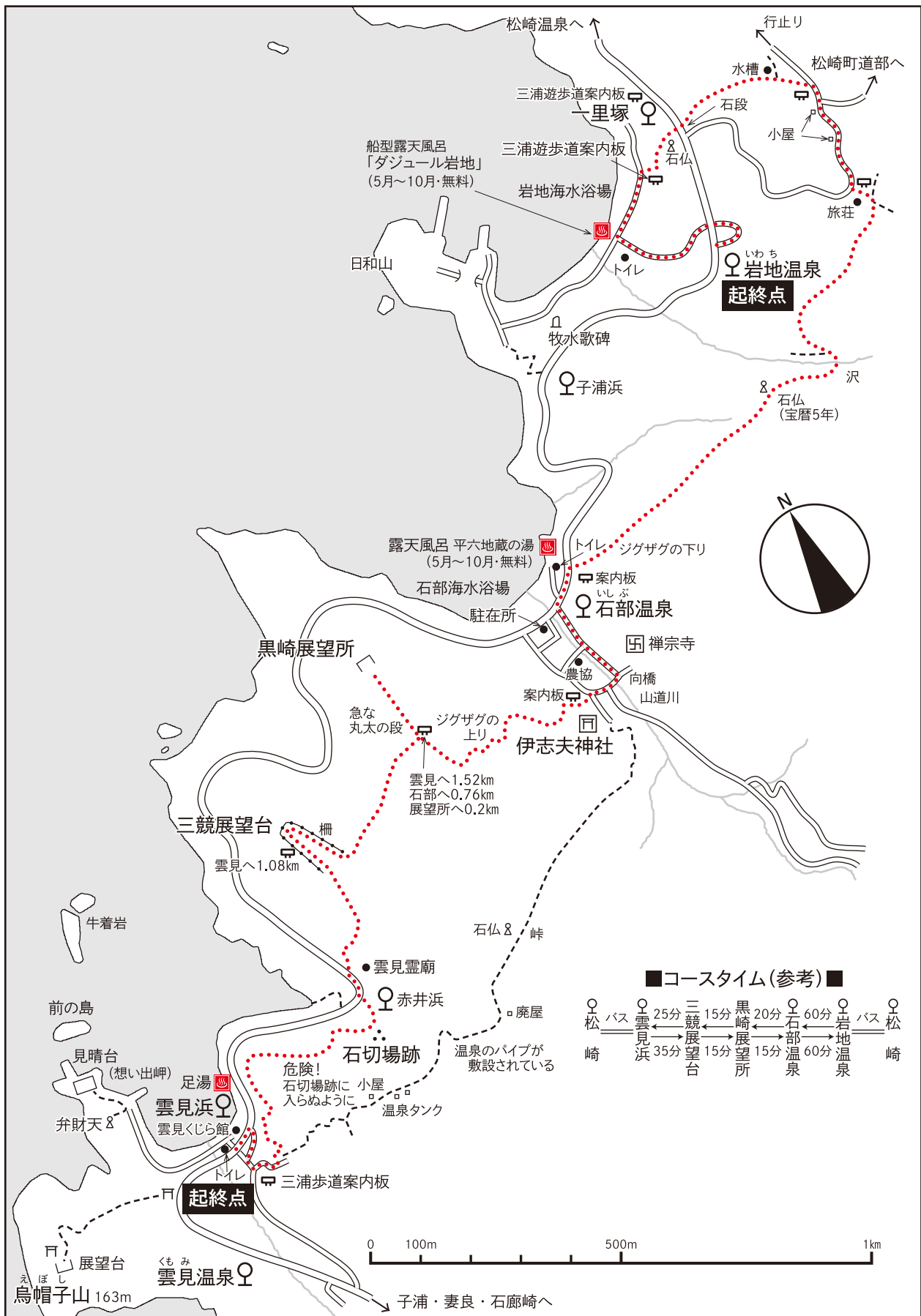
赤井浜への道はアロエが咲く荒れた段々畑の長い急な階段。下り切ると国道に出る。左へ少し行くと石段を上がった所に雲見霊廟。石仏がた



▲黒崎展望所より

くさん置かれている。

国道から、また山道へと入ると石切場跡。ここは、その昔江戸城修築の際に、間地石を切り出したところ。雲見湾に浮かぶ牛着岩や烏帽子山を眺めながら下ると雲見金沢の終点。足に余裕のある人は、163mの烏帽子山へ登ってみるのもいい。浜にある雲見くじら館(有料)・足湯へも寄って行こう。



■コースタイム(参考)■

松崎	バス	25分	雲見	15分	三競展望台	15分	黒崎展望所	20分	石部温泉	60分	岩地温泉	バス	松崎
			35分		15分		15分		60分				

伊豆西南海岸の景勝を利用した野猿の波勝崎口から雲見までの波勝崎歩道(18・19頁)、雲見〜岩地を結ぶ三浦歩道、岩地萩谷崎をめぐる岩地歩道、の三つの遊歩道がつながり、全長15・5kmの長い遊歩道となっている。また、近くには短いながら味わいのある雲見の千貫門遊歩道もあるので、ハイカーにとって大変うれしい所である。

松崎から雲見入谷行のバスで「富士彫刻ライン」に行く。

歩程 約1時間5分



▲萩谷トンネルからの桜と富士山



▲静かな萩谷海岸

萩谷で下車。ここにも白い彫像が1体あり、そばに岩地歩道の案内板が立っている。萩谷トンネルの手前の石段を登る。狭い段々畑を登った所で4体の石仏がある。北を見ると海岸線に伸びた道路の上にポツカリと富士山の姿も見られる。小さな小屋の裏から右へ、きれいに積まれた石垣の畑の中を行く。左手には岩地漁港から日和山、その向こうに雲見方面の美しい海岸線が連なっている。



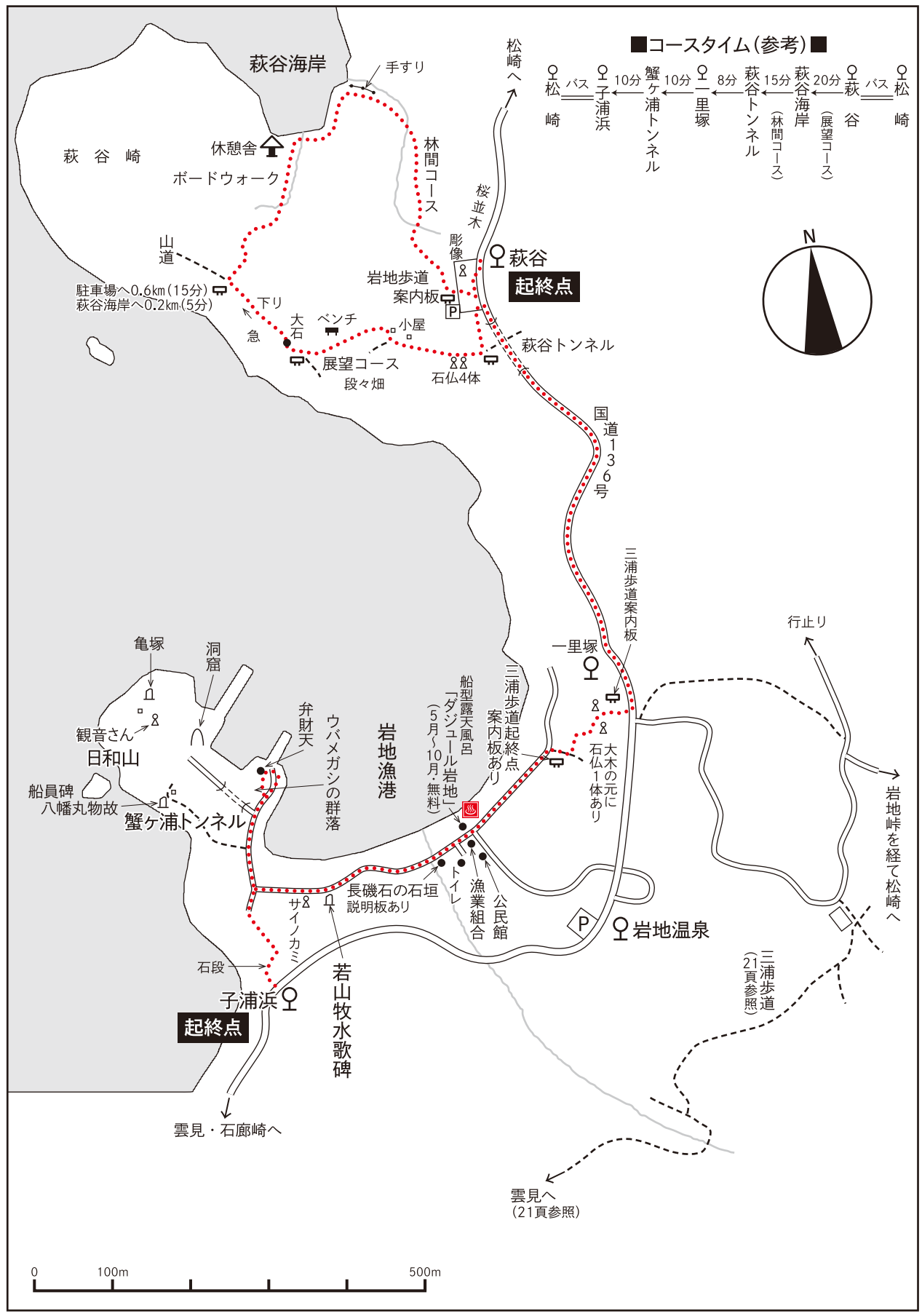
▲岩地海岸



▲船型露天風呂「ダジュール岩地」(5月〜10月)

道はくねくねと曲がった急な灌木の中の下りで、下り切るとパッと左手が開け、眼下に白波のくだける絶壁がつづいている。案内標に従い右のうっそうと繁った灌木の中へと下る。細い女竹が多く見られ、木道を進むと休憩舎のある萩谷海岸に出る。あまり広くはないが波静かな澄んだ海は、知られざる絶好の海水浴場だ。海岸をつち切って手すりのあるコンクリートの道を登る。石垣の積まれた段々畑を登り切ると、萩谷のスタート地点に戻る。

静かな岩地海岸は、夏には海水浴客でにぎわうところ。特に船の中に温泉をひいた露天風呂「ダジュール岩地」が人気を呼んでいる。(5月〜10月) しばらく行くと若山牧水の歌碑「山ねむる 山のふもとに 海眠るかなしき春の 国を旅行く」がある。静かな海辺を散策したら民家の間を上り子浦浜のバス停へ。



## ■ 主な観光施設

注) 観光施設の入館料・定休日は都合により変更される場合があります。事前にご確認ください。

地区	施設名	電話	入館料	開館時間	定休日	備考
下田市	下田海中水族館	0558-22-3567	2,100円	9:00~16:30	無休	
	下田開国博物館	0558-23-2500	1,200円	8:30~17:30	無休	入館17:00まで
	上原美術館	0558-28-1228	1,000円	9:00~17:00	無休	入館16:30まで
	下田ロープウェイ	0558-22-1211	1,050円	9:00~17:00	無休	料金は往復、強風時運休有り
	伊豆クルーズ(下田港内めぐり)	0558-22-1151	1,250円	9:10~15:30	無休	荒天時運休、臨時便有り
	了仙寺MoBS黒船ミュージアム	0558-22-2805	500円	8:30~17:00	無休	入館16:40まで、12月24日~26日休館
	玉泉寺 ハリス記念館	0558-22-1287	500円	8:30~16:30	無休	
南伊豆町	道の駅 開国下田みなの	0558-25-3500	無料	9:00~17:00	無休	
	道の駅 下賀茂温泉湯の花	0558-62-0141	無料	9:00~17:00	無休	農産物直売所、足湯等あり
	石廊崎オーシャンパーク	0558-65-1600	無料	8:30~17:00	無休	駐車料金有り、10/1~3/31は9:00~16:00
	下賀茂熱帯植物園	0558-62-0057	無料	9:30~15:00	水曜日	
	南伊豆アロエセンター	0558-65-0286	無料	8:30~16:30	無休	
	大瀬花狩成晃園	0558-65-0081	無料	8:00~16:00	12月下旬~5月中旬は無休	花狩り体験10本500円
	伊豆クルーズ(石廊崎岬めぐり)	0558-22-1151	1,450円	9:00~16:00	無休	荒天時運休・30分毎運行
松崎町	一条竹の子村	0558-62-1583	650円	9:00~16:00	要確認	4/1~5/5は無休
	波勝崎モンキーベイ	0558-67-0003	1,200円	9:00~16:00	無休	
	伊豆の長八美術館	0558-42-2540	500円	9:00~17:00	無休	浄感寺の本堂
	長八記念館	0558-42-0481	500円	9:00~17:30	無休	
	重要文化財岩科学校	0558-42-2675	300円	9:00~17:00	無休	
道の駅 花の三聖苑	0558-42-3420	無料	9:00~17:00	無休		
明治商家 中瀬邸	0558-43-0587	100円	9:00~17:00	無休		

## ■ 主な祭り・行事

注) 祭り・行事の日程は予定です。都合により変更される場合があります。事前にご確認ください。

1月上旬	下田水仙ソーデーマーチ	下田市
2月10日~3月10日	みなみの桜と菜の花まつり	南伊豆町青野川沿い
2月11日	鬼射祭	下田市稲梓
3月27日	お吉まつり	下田市宝福寺
3月下旬~4月上旬	桜祭り	松崎町大沢温泉
4月	南伊豆自然まつり	南伊豆町
4月3日	石室神社権現まつり	南伊豆町石廊崎
4月第1日曜日	中川三聖まつり	松崎町大沢温泉
4月下旬	岩科重文まつり	松崎町岩科
5月第3日曜日	岩地温泉大漁まつり	松崎町岩地海岸
5月第3金・土・日	黒船祭	下田市内各所
6月1日~30日	あじさい祭	下田公園
9月	オープンウォーターズスイムレース	南伊豆町弓ヶ浜海水浴場
8月8日	弓ヶ浜花火大会	南伊豆町弓ヶ浜海岸
8月14日~15日	下田太鼓祭り	下田市
8月15日	妻良の盆踊り	南伊豆町妻良
8月15日・16日	松崎花火大会	松崎町
9月第2土曜日	伊豆半島太鼓フェスティバル	松崎町
9月20日~11月30日	南伊豆伊勢海老まつり	南伊豆町全域
9月下旬	長八まつり	松崎町長八美術館・長八記念館
中秋の名月前夜	小稲の虎舞い	南伊豆町小稲
10月第2日曜日	雲見温泉海賊料理まつり	松崎町雲見海岸
10月28日~30日	白浜神社例大祭	下田市白浜
11月1日~2日	太鼓まつり	南伊豆町全域の神社
11月2日	加畑神社の駕籠獅子	南伊豆町下賀茂
11月2日~3日	秋まつり	松崎町内各神社
12月20日~1月31日	水仙まつり	下田市爪木崎

## ■ 観光・ハイキングのお問い合わせは

下田市観光交流課	☎0558-22-3913	(一社)下田市観光協会	☎0558-22-1531
南伊豆町商工観光課	☎0558-62-6300	(一社)南伊豆町観光協会	☎0558-62-0141
松崎町企画観光課	☎0558-42-3964	松崎町観光協会	☎0558-42-0745

## ■ ハイキング帰りに入れる湯どころ

地区	施設名	入浴料	営業時間	定休日	電話	備考
下田市	クアハウス石橋旅館	1,100円	10:00~22:00	無休	0558-22-2222	
	観音温泉 観音プリンス	1,500円	10:30~18:00	無休	0558-28-1234	
	いづみ荘	500円	15:00~22:00	無休	0558-22-3080	
	下田大和館	2,000円	15:00~18:00	無休	0558-22-1000	
	昭和湯	430円	9:00~20:30	10日・25日	0558-23-0739	
	黒船ホテル	1,300円	10:00~20:00	無休	0120-715-841	
	下田ベイクロシオ	1,300円	15:00~21:00	無休	0558-27-2111	
	下田オーシャンパークホテル	1,000円	12:00~22:00	無休	0558-22-2635	
	下田聚楽ホテル	1,500円	15:00~18:00	無休	0558-22-2230	
	下田ビューホテル	1,000円	14:00~21:00	夏季営業期間	0558-22-6600	
	下田プリンスホテル	1,200円	13:00~18:00	年末年始 夏季営業期間	0558-22-2111	
	千人風呂 金谷旅館	1,000円	9:00~22:00	無休	0558-22-0325	
	昭吉の湯	700円	10:00~20:00	月一臨時休業	0558-28-0457	
南伊豆町	休暇村南伊豆	800円	13:00~15:00	不定休 海水浴シーズンは休み	0558-62-0535	受付13:00~14:30
	町営温泉 銀の湯会館	1,000円	10:00~21:00	水曜日	0558-63-0026	受付10:00~20:20
	花のおもてなし 南楽	1,500円	16:00~20:00	不定休 宿泊客数により入場制限有	0558-62-0171	受付16:00~20:00
	石廊館	800円	15:00~19:15	不定休 入場制限有	0558-62-0013	受付15:00~18:30
	ホテル 河内屋	1,000円	15:00~20:00	不定休 宿泊客数により入場制限有	0558-62-1234	
	石花海別邸 かぎや	1,000円	15:00~18:00	不定休 年末年始・繁忙期 宿泊客数により入場制限有	0558-62-0080	
松崎町	伊豆まつぎ荘	1,000円	14:00~17:00	無休	0558-42-0450	
	野天風呂 山の家	600円	8:00~21:00	無休	0558-43-0217	
	石部温泉「平六地藏の湯」	無料	日中のみ	11月~4月	0558-42-0745	入浴時水着着用

注) 施設の料金・営業時間・定休日は都合により変更される場合があります。また、旅館・ホテルの場合、混雑時や土日・休前日・休日には利用できない場合があります。事前にご確認ください。



伊豆まつぎ荘 (松崎町)



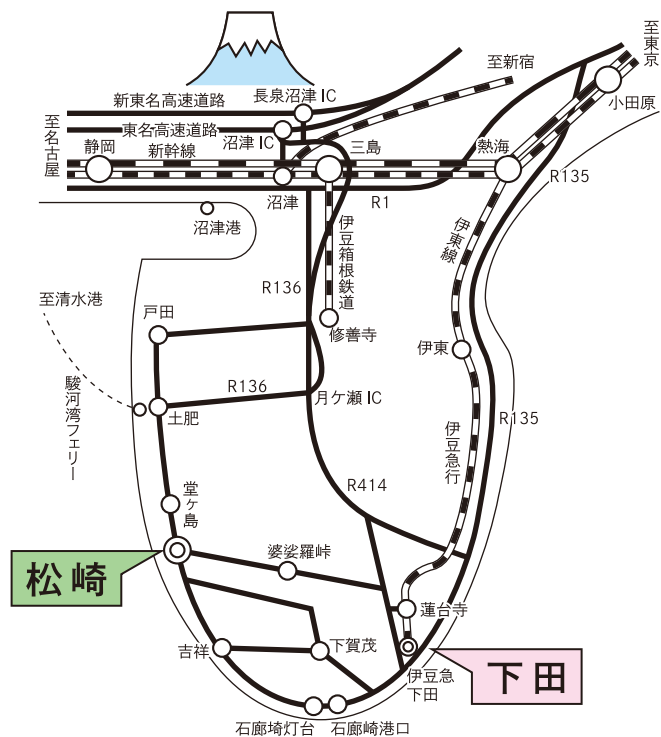
銀の湯会館 (南伊豆町)



休暇村南伊豆 (南伊豆町)



昭和湯 (下田市)



「南伊豆を歩く」交通の起点となる  
下田・松崎までの交通

◎電車で.....

- 東京  $\xrightarrow{\text{特急踊り子号 } 2\text{時間}40\text{分}}$  下田  $\xrightarrow{\text{バス } 50\text{分}}$  松崎  
特急バス 40分 (1日1便)
- 東京  $\xrightarrow{\text{新幹線 } 50\text{分}}$  熱海  $\xrightarrow{\text{伊豆急行 } 1\text{時間}30\text{分}}$  下田  $\xrightarrow{\text{バス } 50\text{分}}$  松崎  
 $\xrightarrow{\text{伊豆急行 } 1\text{時間 } 27\text{分}}$  蓮台寺  $\xrightarrow{\text{バス } 40\text{分}}$  松崎
- 東京  $\xrightarrow{\text{新幹線 } 1\text{時間}}$  三島  $\xrightarrow{\text{特急バス } 2\text{時間}7\text{分}}$  松崎  $\xrightarrow{\text{バス } 50\text{分}}$  下田
- 東京  $\xrightarrow{\text{新幹線 } 1\text{時間}}$  三島  $\xrightarrow{\text{伊豆箱根鉄道 } 35\text{分}}$  修善寺  $\xrightarrow{\text{バス } 2\text{時間}}$  下田  
 $\xrightarrow{\text{バス } 1\text{時間}40\text{分}}$  松崎
- 東京  $\xrightarrow{\text{特急踊り子号 } 2\text{時間}7\text{分}}$  修善寺  $\xrightarrow{\text{バス } 2\text{時間}}$  下田  
 $\xrightarrow{\text{バス } 1\text{時間}40\text{分}}$  松崎

◎車で.....

- 長泉沼津IC・沼津IC  $\xrightarrow{\text{伊豆縦貫道路 } 38\text{km}}$  月ヶ瀬IC  $\xrightarrow{\text{国道414号・国道135号 } 43\text{km}}$  下田  
 $\xrightarrow{\text{国道136号 } 42\text{km}}$  松崎
- 東名清水IC  $\xrightarrow{5\text{km}}$  清水港  $\xrightarrow{\text{フェリー } 1\text{時間}10\text{分}}$  土肥港  $\xrightarrow{24\text{km}}$  松崎  $\xrightarrow{27\text{km}}$  下田
- 東名  $\xrightarrow{\text{東名高速道路 } 35\text{km}}$  厚木  $\xrightarrow{\text{小田原厚木道路 } 43\text{km}}$  小田原  $\xrightarrow{\text{国道135号 } 23\text{km}}$  熱海  $\xrightarrow{\text{国道135号 } 75\text{km}}$  下田  $\xrightarrow{27\text{km}}$  松崎